空き家バンクを活用して理想の暮らしに

「山の近くで農作業をしながら暮らしてみたい」―そんな思いをずっと抱いていた宮脇さん。知人からＹＹＰを紹介され、ホームページを見ていたところ、気になる物件を発見。すぐに連絡すると話がとんとん拍子に進み、内覧から3ヶ月でご家族7人が八頭町に移住されました。

移住前は車の通りが多い地域に住んでいたため、子どもたちは外で自由に遊ぶことが難しく、住まいも手狭だったことで家族同士がぶつかることもあったそうです。しかし今では、子どもたちは自転車に乗ったり虫取りをしたりと、自然の中でのびのびと過ごし、広々とした家ではそれぞれが自分の時間を持つことができ、心にもゆとりが生まれたと話します。

ＹＹＰにお願いしてよかったことは、**「売り主とのやり取りを丁寧にサポートしてくれて安心できた」**と宮脇さん。売り主の方にも家への思い入れがあり、「急に手放すのは寂しい」という気持ちもあるなかで、信頼関係を築けたことが大きかったようです。「今後も家のことや畑仕事について相談できる関係が続くといいな」と、期待を込めて語ってくれました。

畑のある暮らし 誰でも気軽に立ち寄れる居場所

これからの毎日を家族で思い描きながら、期待に胸をふくらませる宮脇さん一家。

空き家との出会いから始まった暮らしが、地域のなかで少しずつ根を張り始めています。

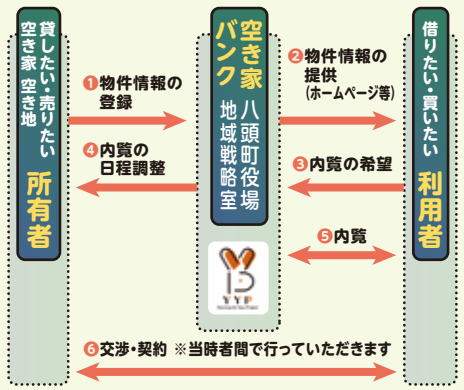
利活用に迷ったら… 空き家所有者の心強い味方！「空き家バンク」という選択

「空き家バンク」は、町内の空き家や空き地を〝次の住まい〟として探している方に紹介する仕組みです。行政と民間が連携し、物件登録から利活用までをしっかりサポート。移住を希望する方からの問い合わせも年々増えており、登録物件が出るのを待っている人も少なくありません。

田舎の家だから古くて無理かも……と思われる方も、まずは一度ご相談ください。「使わないまま放置しているけど、どうしたらいいか分からない」という場合も大丈夫。登録に向けたサポートも行っています。

空き家は、放っておくと老朽化が進んでしまい、将来的な活用の可能性が小さくなることも。大切な家を未来につなぐために、ぜひ「空き家バンク」のご活用を考えてみませんか？

空き家バンク制度のしくみ



空き家と人、地域をつなぐ中間支援のチカラ

移住定住センターの運営をはじめ、空き家バンクの実務や見学者の案内など、地域と移住希望者の間をつなぐ活動を行っているのが、一般社団法人Yearning for Yazu Project ヤーニング・フォー・ヤズ・プロジェクト（通称ＹＹＰ）です。

もともとは、空き家問題に関心を持っていたメンバー同士が、研修会などを通じて顔を合わせる中で、「空き家を手放したい人」と「使いたい人」の間に立つ〝第三の受け皿〟が必要なのでは、という思いが重なり、団体の立ち上げにつながったといいます。

ＹＹＰが活動を通して大切にしているのは、「八頭町ファンを増やすこと」。

空き家見学に訪れた方には、町の魅力だけでなく、暮らしの中で感じるギャップも丁寧に伝えるようにしているそうです。移住後に「こんなはずじゃなかった」とならないよう、ポジティブなことも、あえてネガティブなことも隠さず共有する。それが、町を好きになってもらい、長く関係を続けてもらうために大事なことだと考えています。

移住者を地域へ橋渡しするだけでなく、地域の側が移住者を受け入れやすくなるよう、つなぎ役として丁寧な関係づくりを心がけているのもＹＹＰならではのスタンスです。

今後は「社会減ゼロ」を目指すという大きな目標を掲げ、さらに活動の幅を広げていく予定です。

特にこれからの10年は空き家対策にとって重要な期間。空き家は使われない期間が短ければ短いほど、次の活用につながる可能性が高まるといわれています。

そこでＹＹＰでは、「空き家予備軍」と呼ばれる空き家予備段階の家を持つ人たちに向けた出前講座などを通して、早い段階での気づきと行動を呼びかけていく活動にも力を入れていきたいと話していました。

安部地区まちづくり委員会で
空き家出前講座を開催しました

YYPメンバーの山邉さん（左）、
西山さん（右）

ＹＹＰを通じて実家を売却した〇さんの声

両親が暮らしていた実家が空き家になり、「どなたかに活用してもらえたら…」と思っていた〇さん。新聞でＹＹＰの活動を知り、連絡をとったのが始まりでした。

活動内容を聞き、家の状態を見てもらう中で、「空き家バンクに登録しよう」と決意。少しずつ片づけを進め、準備が整ったタイミングで再度連絡したところ、ちょうど物件を探していた方とのご縁がつながり、無事成約に至りました。

「ＹＹＰは行政と連携していて安心感がある。地域のために動いている姿勢にも信頼が持てました」と〇さん。

「家を手放すには迷いや不安もあるけれど、大事なのは〝準備して待つ〟こと。決断を先延ばしにして家が荒れてしまう前に、まずは動き出してほしい。整理すれば、良いご縁が巡ってくると実感しました」と語ってくれました。

空き家は「課題」から「資源」へ誰かの暮らしが、ここからはじまる。

空き家を活かすということは、建物だけでなく、思い出や風景、地域とのつながりを次の誰かへつなぐこと。

今回ご紹介したように、八頭町では行政と民間、地域の人々が一緒になって、空き家の新しい活用に取り組んでいます。

「まだ早いかも」と思っている今こそ、第一歩を踏み出すタイミングかもしれません。

空き家のこと、暮らしのこと、気になることがあれば、どうぞお気軽にご相談ください。

空き家の相談窓口

◆移住定住支援センター（運営：ＹＹＰ）
八頭町日下部1228-1（くるくる内）
☎080-3878-3658
（月～金 10：00～16：00）
mail yearning.for.yazu@gmail.com

◆企画課地域戦略室 ☎76-0213

町内の空き家バンクの情報は八頭町移住定住サイトをご覧ください。

八頭町
移住定住サイト